



境内に到着します。指定樹木の檜、杉、銀杏、樺など6本も在りましたが、杉が内部腐食で伐採されたのは残念です。

神社の参道沿いに、虫籠窓の家、茅葺の家が続きます。中でも古久保家は、蔵に大黒天の捏絵(こてえ)が付いています。家紋以外が付いている珍しい例です。以前、この家の瓦葺き職人から聞きましたが、昔は止々呂美にも瓦を焼く窯が在ったが、現在は淡路、菊間(愛媛県)の瓦が使われていますが、止々呂美は寒さが厳しいため、暖かい地方の瓦は冬場に凍結で割れると話していた。古民家で生活する人々も、私達が想像できない苦勞、悩みを抱えていることを学び、ウォッチングを終了した。

まちなみウォッチング 第82回  
西小路.新稲の古民家探訪

2014. 5. 17

古民家探訪 シリーズ(第二回)

ウォッチングコース 歩行距離 約 3.6km

阪急箕面駅 → 西小路集落(古民家探訪) → 光明寺 → 箕面西公園 → 武道館、西小学校など(丸善石油学院跡地探訪) → 忠魂碑 → 桜池 → 新稲集落(古民家探訪) → 中央線ピーコック前(解散)



箕面駅を出発して、箕面街道を辿ると、最初の集落が西小路です。戦後文化住宅が建っていましたが、現在は本格的な住宅、マンションが並んでいる。街道を右に折れると西小路で唯一虫籠窓の残る古民家、岡島邸が見られます。次いで集落の中心、光明寺の「乳銀杏」を鑑賞します。光明寺は寺子屋でもあり、箕面小の前身です。

箕面西公園の樹林は、四季を通じて緑が豊かで、東公園と共に市民の憩いの森です。野球場は都市対抗野

球で優勝した丸善石油グラウンドでした。武道館、桜ヶ丘保育所、西小は丸善石油学院の跡地で、往時は松下幸之助、石原慎太郎、中曾



ロバート・ケネディー司法長官

根元総理、ケネディー大統領の弟など著名人が多数訪れ、箕面市の名前が全国的になったそうです。

西小前の忠魂碑は、箕面小に在ったもので、改築の為移設した。一部市民から憲法違反の訴訟(箕面忠



魂碑訴訟)が起こされ最高裁の合憲判決があったものです。

新稲に入ると僅かな田園地帯が広がります。桜池付近は箕面市が制定した、山裾景観保全のための視点場(ここから山頂までの線を越える建物を規制)の一つです。



自治会館から北へ地藏堂へ向かう道筋に、沢山の古民家が残っていますが、殆どが改築されています。右手の蔵の前に、箕面では珍しい鼠返しのある家が在ります。ぜひ見て下さい。地藏堂の手前の道が中山寺への西国巡礼道で、左角に



古い道標が残っています。街道を西に進むと、最近建った住宅が混在します。左折して旧集落の細道を辿ると、至る所で虫籠窓の古民家が残っています。一つ一つ眺めていると、往年の農村の生活が感じられます。窓の在中二階は、昔は柴な



ど薪の収納場所だったようです。阪神大震災で被害を受け、多くが瓦の葺き替え、壁の塗り替えを行ったようで、美しい姿を見せております。新稲は田園が少なく植木を育て、造園業を営む家が多く、各家の庭や門も立派なものが沢山在ります。指定保護樹木も自治会館前に並んでいます。

古民家探索を終えて、南へ下ります。桜ヶ丘地区に入ると、街の雰囲気ガラリと変わります。そのことを感じながら中央線ピーコック前で解散しました。



## 九月から再開 奮ってご参加下さい。!!

夏の暑さを避けて、8月はタウンウォッチはお休みしますが、9月20日(土)から再開します。(詳しくはもみじ便り9月号オアシス欄に記載) 皆さんお誘い合わせてご参加下さい。





## 学校時代の思い出の木を残そう

私事で恐縮だが、私の子供は3人とも、箕面第一中学校の卒業生である。先日、一中同窓会報「青嵐」が送られてきた。その中の記事に、「樺の思い出、樺よ！さようなら」（34期 河村茂樹氏寄稿）というのがあった。一中の校舎の壁面に、大きな樹木のタイル画が描かれている。以前からなんだろうと思っていたのが、この記事で疑問が解けた。

中庭には、一中ができるはるか昔から生えていた200年を超える大きな樺があったが、生徒数の増加による新校舎の建設のために、昭和55年夏に伐採された。一中の校歌の二番には「校庭の樺の緑ゆたかに 梢に光る理想の明星・・・」とあり、この樺は、一中のシンボルであったことが分かる。そしてこの学び舎を卒業した同窓生の学校時代のよき思い出となった木でもあった。そのメモリアルとしてこの壁画があり、また、一中の玄関を入ると校歌の額の下に、大きな切り株が残されている。



高度成長時代は経済効率優先で、昔の良き時代のものは弊履のように捨て去られた時代でもあったから、一中の樺が伐採されたことも仕方ないことであつたであろう。しかし、学校時代の懐かしい風景が、何も残っていないというのは、訪れる同窓生にとっては淋しいかぎりと思う。

箕面小学校の校庭には、古い柿の木があった。学校のシンボルとして大事にされてきていたが、枯死寸前の老木となり、危険ということで伐採された。しかしこの柿の木の二世が、別の場所で育てられていると聞く。萱野小学校にはたくさんの柿の木があり、特に正門のそばの林は「トトロの森」と名付けられて、生徒から親しまれ、大事にされている。

そこで提案がある。箕面市の小学校・中学校のそれぞれで、学校のシンボルツリーを選定し、学校時代の思い出となるよう大事に守っていくというのはどうだろうか。大きく育った「木」を眺めて、思い出に浸るのは、年寄りのノスタルジーだけではないと思う。

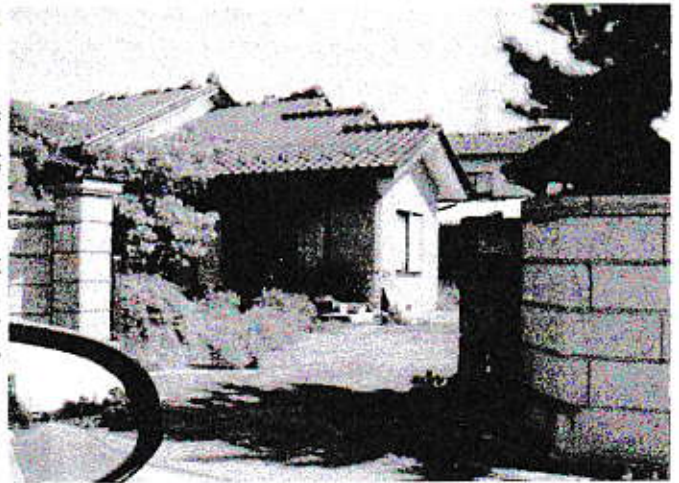
(片岡 正彦)



## 人は忘れ易く、無関心に成り勝ちだ !!

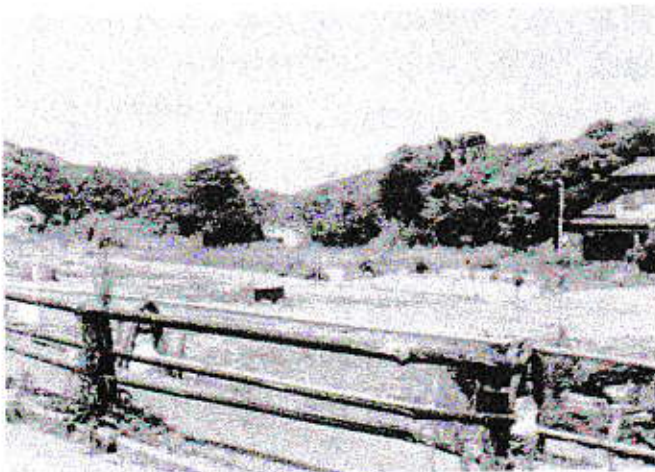


5月に福島県北西部を車で旅をした。白河市(東北の玄関、白河の関の在る町)を出発して、阿武隈高地の街、田村市常葉町、都路地区へ入る。都路地区は何となく生活感が感じられない街だと思った。新築の家に引っ越した時の様に馴染めなかった。道路脇に大きなビニール袋(除染廃棄物用容器フレコンバック)が、随所に集められていた。続いて川内村に入ると、人々は落ち着いた生活の様だったが、黒い大きな袋は、相変わらず野積みされていた。更に山道を進むと、常磐高速道が見えて、富岡町に入った。道路工事が至る所で進められているが、死の街の様に人々の生活感が全く無かった。両脇の家々は瓦はずれて、建物も傷みが激しく、門柱も傾き、庭は草が茂っていた。チョット見には判らなかったが、人が全く住んでいない廃屋の町だった(居住制限区域)。さらに車を進めると、「この先、避難指示地区につき、立ち入りはご遠慮ください」との標示で、ようやく気が付いた。福島第一原発の事故で、放射能汚染が深刻な状態で、建物も地震被害を受けたまま、避難所生活を余儀なくされている地域に、不覚にも侵入してしまったのだった。



居住制限区域の町 (福島県富岡町)

止む無く引き返し、山麓部を経て檜葉町役場に到着した。山麓部は通常の道で特に違和感を感じられなかったが、役場付近はあまり人の気配を感じなかった。国道6号を進むが、道の駅「ならは」は休業していた。広野町を経て一気にJRいわき駅に向かった。駅前付近も賑わいがそこそこで、異常さを全く感じなかった。



津波の爪痕が残る (いわき市の海岸)

灯台守夫婦の映画「喜びも悲しみも幾年月」の舞台となった、塩屋埼灯台を目指した。海岸線を走っていると、防潮堤の工事が盛んに行われていた。車窓の風景は、殆どが建物の土台だけで、所々に鉄筋の建物がポツンと残っていた。アツ津波に襲われた地域だと思って、よく見ると全く人々の暮らしは無かった。背後に山が迫る狭いエリアだけに、人々の生活が回復するのだろうか。灯台に登り周囲を見渡すと、長い海岸線の岬付近は、



津波被害を受けていた。人々の暮らしが戻ってないのに、多くの観光客が訪れる違和感を、どう受け止めれば良いのだろう。

灯台からさらに津波被災地を経る。コンビニが開店していたのに驚いたが、多くの復旧作業員が働き、周辺の商店も開店していないので、手軽に商品が揃うコンビニの存在に納得する。小名浜地区に入ると、街の風景は全く異常を感じず、遅い昼食を摂り帰路を辿る。

○ 避難指示区域の概念図



帰宅後、調べると田村市都路地区は、原発事故で福島県 11 市町村に出ている避難指示(原発より半径 20 \*。圏内)が、今年 4/1 に唯一解除された地域だった。川内村は原発事故後、役場を福島市に移したが、1 年後に元へ戻し汚染対策も終了していた。富岡町は福島第一原発所在地(大熊町)の隣町で、除染作業が進められているが、居住制限地区や帰還困難地/区の解除には相当時間を要す状況だった。楢葉、広野町も家屋倒壊、津波被害を受け、役場を移転したが、楢葉町は今年 5 月に、広野町は原発より 20 \*。圏外だった為、避難指示は解除されたが、全国から原発の収束、除染作業の人が集まり、町民の数を上回る程となった。いわき市は市域が広く、海岸線は津波被害が大きかった、小名浜地区も漁船の打ち上げ、自動車の流失、道路損傷、家屋倒壊など地域による差が大きく、被災後もマスコミなどの取り上げも少なかった。一部で広域合併の弊害とも云われた。

私自身、震災、特に原発事故の被災状況を時間と共に遠い地区の問題と、全く頭から消えていた。先日大臣の失言で全国的に話題になったが、被災地域が頭に浮かばなかった。車を走らせていると大部分が復興されて、通常の営みに戻っていた。(ある意味で喜ばしいことだが、被災地であることを忘れさせていた。)

一方、宮城、岩手県の海岸部は、町ぐるみ津波被害を受け、壊滅的な打撃を受けた。マスコミは格好の報道対象として日々取り上げ、人々の記憶を失わせなかった。追い打ちを掛けた、「アマちゃん」が多くの国民の関心を持ち続けさせた。他方、福島原発事故の汚染地区のニュースは、殆ど全国報道はなく、人々の関心が次第に薄れていった。

私達は、世の中の動きを、正しく把握したいものと、自戒を込めて思った。(大町凱彦)